

市議会だより



国体カヌー競技の
リハーサル大会が開かれた
玉川特設会場

主な内容

- 新議長・副議長
・新常任委員会構成決まる ……2～3P
- 6月定例議会 ……4～5P
- 一般質問 ……6～15P
- 常任委員会だより ……16～18P
- 控え室風景 ……19P
- 編集後記 ……20P

新議長・副議長 新常任委員会構成決まる

新議会の挑戦



議長 佐藤 峯夫

仙北市議会は、四月十六日に執行された市議会議員選挙により、二十四人の新議会が誕生し、改装なった議場において、このほど初めての定例議会を終えたところであります。

改選後の初議会において、はからずも議長に選任されました。在任特例期間の議会においても議長を引き受けた経緯がありましたが、在任特例時はいわば調整役であり、もとよりその任にはないと思っていたところであります。

新しい議会の舵取り役として、その責務の重さをかみ締めているところでありますが、この四年間で、仙北市議会の確固たる姿を示していかねばならないものと覚悟を新たにしているところでありま

す。

町村議会から市議会となり、議会運営においてもこれまでとは異なる場面もありますが、それぞれの議員が選挙の洗礼を受けてきたという重みを十分に認識し、仙北市議会議員であるという矜持を持ち、礼節を保った議会活動の心がけて参りたいと念じているところであります。

また、議員報酬については、改選後、他の市議会の報酬等を参考に、報酬等審議会の審議を経て、決定させていただいたところであります。

在任特例時より額が上がったことから、いろいろご批判を受けていることは承知しております。議員数が大幅に削減されたことから、議会にかかる経費はかなり削減されており、むしろ問題は、二十四人の議員が仙北市発展のために、市議会議員としての研鑽に努め、市民の声に謙虚に耳を傾け、一人一人がその役割を果たすことができるかどうか問われているのだと思っております。

新しく誕生した市の初めての議会であります。当局との緊張感を保ちながら申すべきは申し、公正な議論の中で、仙北市の進むべき方向が誤ることのないように、努力して参りたいと存じます。

先の定例会には、多くの議会傍聴があり、傍聴席に入りきらない日もありました。議会の活性化には、市民の皆様への議会に対する関心が何よりも必要であります。

今後とも、より一層厳しい目で議会活動を見ていただき、ご意見を聞かせていただき、我々二十四人を叱咤激励していただくことを切にお願ひ申しあげます。

仙北市議会の挑戦は始まったばかりであります。議員各位がそれぞれの立場で日夜奮闘されることをお誓い申し上げます。



副議長 佐々木 章

総務常任委員会



委員 佐藤直樹



委員 田口寿宜



副委員長 真崎寿浩



委員長 八柳良太郎



委員 佐藤峯夫



委員 高久昭二



委員 佐藤宗善



委員 青柳宗五郎

教育民生常任委員会



委員 藤原助一



委員 大石温基



副委員長 小田嶋忠



委員長 浦山敏雄



委員 戸澤 清



委員 佐々木章



委員 藤原万正



委員 浅利則夫



委員 小林幸悦



委員 安藤 武



副委員長 黒沢龍己



委員長 門脇健郎



委員 平岡 均



委員 田口勝次



委員 澤田信男



委員 田口喜義

産業建設常任委員会

委員 浅利則夫
委員 藤原助一
委員 八柳良太郎
委員 安藤武基
委員 大石温樹
委員 佐藤直樹
委員 田口寿宜
副委員長 小林幸悦
委員長 平岡均

広報委員会

委員 佐々木章
委員 藤原万正
委員 高久昭二
委員 佐藤宗善
委員 藤原助一
副委員長 田口喜義
委員長 田口勝次

運営委員会

藤原助一

議会選出監査委員

平成18年度 一般会計補正予算 1億2,566万円を可決

助役人事、東海林氏の選任に同意

一般会計補正予算 - 第2号 -

歳出のおもなもの

(単位：千円)

事 項	補正予算額
政務調査費補助金	2,880
田沢湖駅エレベーター整備工事の補助金	7,000
あなたと地域の農業夢プラン応援事業費	6,605
目指せ“元気な担い手”農業夢プラン応援事業費	9,545
花葉館施設整備事業費	5,670
電源立地地域対策交付金事業費	7,500
交通安全施設整備費	6,000
道路局部改良事業費	4,000
臨時地方道整備事業費	30,000
学校生活サポート(障害児支援)事業費	12,975
上桧木内小学校統合関係事業費	1,000
学校生活サポート(日本語指導)事業費	2,633
スクールカウンセラー活用調査研究事業費	799
市民会館管理運営費	4,560
市民体育館管理運営費	3,168
給食センター管理運営費(角館)	4,170
林業施設災害復旧費	1,028
公共土木施設災害対策費	4,000

議員の改選後、初めての定例議会である六月定例会が六月十三日より二十六日まで、十四日間の会期で開催された。市長提出議案は一般、特別会計補正予算の他、条例の制定や一部改正、公の施設の指定管理者の指定についてなど三十六議案。議員提出議案は市議会政務調査費の交付に関する条例制定など七議案。

更に、追加提案の助役選任案の計四十四議案すべてを原案通り可決(三議案は賛成多数)した。

一般質問は十名が登壇、一議員の持ち時間は答弁含め六十分で、対面方式により行われ、白熱した問答が交わされた。

指定管理者を指定した公の施設 (指定管理者)

- ・仙北市民バス<中川及び下延八割線> (株)西宮家
- ・下延コミュニティセンター (下延コミュニティ連絡協議会)
- ・八割コミュニティセンター (八割部落)
- ・西木温泉ふれあいプラザクリオン (株)西木村総合公社
- ・角館西宮家 (株)西宮家
- ・角館駅前広場観光振興施設(角館町観光協会)
- ・交流促進センター・交流滞在施設など (株)花葉館
- ・都市農村交流施設 (株)アロマ田沢湖
- ・角館中心市街地活性化支援センター (仙北市商工会)

国民健康保険条例制定案は賛成多数で可決 二氏が反対討論

反対討論 平成十八年度の国保税は一般の部で一人あたり五九、三一二円。一世帯で一三、一〇七〇円。平成十七年度と比較すると角館地区では若干の引き下げとなっているが、田沢湖、西木地区では引き上げとなっている。湯沢市では市民の税負担が大きくなって来ていることから、基金取り崩し等で引き下げしている。景気低迷で農家の方や土木関係も苦しんでいる。こうした時こそ税の引き上げをpushさせて市民に答えを求めるべきである。

国民健康保険特別会計補正予算も賛成多数で可決

反対討論 本案は歳入の部のみの補正予算である。国保財政調整基金は当初予算で一億円の取り崩しはしたものの、まだ二億円ある。

国保税の負担税率の決定により、旧田沢湖町、旧西木村住民には値上げとなるものが、少しでも歳入を増やす努力をし、繰越金や基金の取り崩しなどで、引き上げ中を少しでも緩和し、税負担の緩和を計るべきである。



助役に東海林文和氏を提案

単記無記名
投票の結果

賛成二十一 反対二

賛成多数で選任に同意

東海林文和氏 (52才)

生年月日 昭和28年12月6日生

学歴 新潟大学人文学部卒業

職歴 県商工労働部観光課長補佐

県土木部管理課副主幹

県総務部秘書課主幹

県企画振興部市町村課主幹

県知事公室総務主幹

おもな議案

- 仙北市障害程度区分認定審査会の委員の定数を定める条例制定
- 浄化槽整備事業受益者分担金条例の一部改正
- 病院事業の設置等に関する条例の一部改正
- 一般・特別会計補正予算
- かくのだて特設馬術競技会場土木整備工事請負契約の締結
- 自動車物損事故に係る和解及び損害賠償について(9件)
- 田沢湖町田沢財産区管理委員の選任(千田博夫氏、再任)

反対討論の3案以外の議案は議員全員の賛成で可決

1人年額12万円の政務調査費

政務調査費使途基準

項目	内容
調査研究費	会場費、講師謝礼金、出演者負担金・会費、交通費、旅費、宿泊費等
調査旅費	交通費、旅費、宿泊費等
資料作成費	印刷製本代、翻訳料、事務機器購入、リース代等
資料購入費	図書、資料など
その他経費	上記以外の経費で議員の行う調査活動に必要な経費

※上記に関連するものであっても、飲食を伴う懇親会等への支払いには充ててはならない。

議会政務調査費の交付に関する条例を制定

国、県では少子化・子育て支援で論議中。他市町村では様々な支援策を行っている中、仙北市の独自策は全くな。出産費用の引き上げは少子化、子育て支援の流れに全く逆行するものだ。

反対討論

本案は出産・分べん料金を引き上げするもの。大方の出産費用が三十万円を超える事となる。

病院事業使用料等徴収条例の一部改正も賛成多数で可決

一般質問



田沢地域の活性化対策について 生保内市街地の流雪溝について

浦山敏雄

田沢湖活性化センター (旧田沢中学校)の利活用について

質問 当田沢地域も人口減少が続く高齢者（六十五才以上）が三百三十二人と四十%を占めている。

少子化も進み、平成十六年度には、小中学校が統合し廃校になっていく。公共施設が少なくなってきたこの地域にとって、大きな課題の一つは活性化センターの利用が未だに進んでいないことである。当地域は、先人の方々が残してきた貴重な財産が数多くあり、日本の農山村の原風景がある。

この地域の活性化を図り次世代に引きついで行くことが我々の責任でもあるが、仙北市の市長としてのご所見を伺いたい。

市長 田沢小中学校の統合によって、空き校舎になり旧田沢湖町でも利活用について活発な意見交換がされてきたことについては、承っている。

検討委員会の提言も、地域特産品の提供施設、農山村の体験研修施設、学習活動や、スポーツ活動の合宿施設、福祉関係施設などの提案、ご意

見があったと伺っている。このような趣旨を受けて、関係する部・機関の職員による検討チーム、委員会を立ち上げて地元の方々に一度ご意見を伺っていききたい。

田沢診療所存続について

質問 田沢診療所は診療を受けるだけでなく、地域住民のコミュニケーションの場としても重要な施設である。

この存続については、二つの大きな課題があると考えられる。建物や医療器具の老朽化、医療スタッフ体制の充実強化などであるが、市長の存続への対応について伺いたい。

市長 高齢化社会の中、非常に重要な課題である。全国的に医師が極端に不足しており、その確保に苦勞している。田沢湖病院でも十二の診療科があるが、常勤医師はわずか三名、これも減るという状況になっている。

このような状況の中で田沢診療所をどのような体制の中で維持し、地元の方々の期待に添えていくか、広く住民医療機関団体と議論を重ねて検討していく。

田沢地域、幹線市道の整備について

質問 幹線市道田沢線は、幅員がせまくカーブの連続であり、交通安全上、冬期除雪等危険な状況下にある。今後どのようにして整備していくのか伺いたい。

市長 市道の整備については、仙北市の都市建設計画に基いて、住民生活路線に優先順位をつけて順序に進めている。

生保内市街地の流雪溝の整備について

質問 本年度も約六ヶ月で降雪期に入るが、昨冬の反省も踏まえ、対策はどうなっているか。

市長 取水は二ヶ所で行われていたが、水量が十分でないため、これを解消するため、六枚沢から取水を進めている。急いで完成をしたい。

また、利用される市民の方々は施設の現状を理解し、その範囲の中で自ら、モラルを守って有効な利用をしていただきたい。

質問 田沢交流センターで不在者投票、期日前投票ができなくなっているが、交流センターで投票できるように再度委員会で協議し改正でき

ないか。

市長 旧三ヶ町村の公平を図るため田沢湖、角館、西木庁舎の三ヶ所に設置している。

また二重投票を防止するためでもある。

投票場所については、今後委員会の中で前向きに協議していく。

質問 品目横断的農業経営安定対策への市の取り組み方はどうなっているか。

市長 現在集落営農組織を設立しようとしている集落数は、十集落。話し合いを進めている集落は、九集落である。徐々に浸透し増えつつある段階である。



マナーが悪いのか、それとも改良を要するのか、流雪溝

一般質問



元気溢れる仙北市をめざせ 待たれる観光振興策

田口勝次

元気溢れる仙北市をめざせ

質問 行政が活気溢れる職場になる為に、機構改革・業務改善を図り、業務や市民サービスに徹するべきと思うがどうか。

民間の良さを持って行政にあたると思うが、その割に浸透してないのではないか。

九月予定の本格的機構行財政改革の基本的考えは？

市長 元気溢れる態勢にする事は同感である。仙北市を外から見ると魅力があるか。あれば交流人口が増え、他へ出る人も減る。定住者が増える。

まずは民間のコスト意識を浸透させていきたい。総合計

画を立て、それを元に行財政計画を立て、九月までは整理したい。また、執行態勢のオープン化は今後も更に進めたい。

質問 市民が元気になるには条件整備や資料が必要である。

各種統計など分析し政策にする必要があると思うがどうか。

農業や建設業は先行き不透明であり、ダウンするのは眼に見えている。どうやってアップするのか。

市長 人口減少で税収は上がらない。統計が古いが産業構造は変化しており、農業人口は減少中である。

生産高に占める農業は生産高金額は四十五億円だが、全

産業に占める比率は四・五％と低い。しかし、サービス業は上昇しており、基幹産業である農業の伸びが鍵となる。

観光振興のため産業政策課は必要では？

質問 産業構造の再配置、営業、農集落支援、農業法人支援、所得向上等を考える為には、先に廃止した産業政策課はぜひとも必要と考えるが再考の余地はないか。

市長 総務部に政策担当を置き中心に進める。観光部と協議しながら執行していく。

質問 既存の資源を守りながら、新たな建物などは必要でないか。

仙北市として新たな土地の利用計画は必要でないか。必要なのは交流人口拡大策か、それとも定住促進策か。

市長 土地の再度利用計画は必要である。定住策より交流人口策が先である。

質問 武家屋敷、桜はどう守る。

市長 文化財はなくさないよう配慮してきたし、歴史的遺構が残っている。地域にあるべき姿で残して行きたい。

町づくりの本拠・市役所はどこに？

質問 町づくりの本拠をどこにするのか。市役所のあり方は、新しい施設が既存の施設の利用か。

市長 分庁舎のデメリットがあるの、各地域に便利な所にした。十年間の後半に大きい額が置かれている。時期は、はっきりしてないが出来るだけ早くしたい。既存の施設を活用できれば、それに越したことはない。

質問 財政健全化を維持しながら適正な行政水準を保てるか。

市長 人口減少で収入が落ちていく。我慢するものは我慢してもらおう。直営施設削減、民間委託、指定管理者制度を進めながらもサービスは落さない。

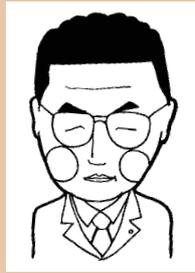
質問 診療報酬の改定で先が見えず経営が悪化している二つの病院の今後の見通しは。また、大曲厚生連への対応は。

市長 役割分担をしながら広域での対応を考えたい。医療技術の面も含め、組合病院への対応も考えていく。



街づくりの要、企画政策課

一般質問



税の収納率と 納税組合の関係について 林道管理について

門脇健郎

質問

景気は回復基調にあると言いが、税の高騰、医療費、介護保険、ガソリン、公共料金の値上がりなど、末端ではその実感はない。このような状況の中で、税の収納率が低迷している今日、納税組合の活用は欠かす事の出来ない問題である。

また滞納繰越、不納欠損額都市計画税の欠損を合わせる五億九千万円を越える金額になる。納税組合に経費を投じて納税意欲を高めれば市にとっては得ではないのか。

市長 市の納税組合は三百四十七組合、加入戸数六千二百五十三世帯で全世帯の五十七・七％であり、収納額では十四億三千万円である。今日では口座振替等で、利用の方法も大きく変わっている。

納税組合への考え方は、ここ数年何回か組合法の改正により変わって来ている。第十条に、自治体は組合に対して、組合の事務、その他必要な費用は、補助することが出来るとしているが、納付すべき税金を税を使って促進することに対しては、裁判所の判例も出ているので市としても組合が扱う税額に応じた助成はしていないし、報奨金で収納率を上げるような方法をとって

いないので理解してほしい。現在は組合規模に応じた補助で、その額は組合員数十五人では三万五千元、三十五人の場合は七万五千元である。

林道管理について

質問 大雪による倒木、崩れ各地で見られた。この復旧と今後の管理のあり方について伺いたい。

市長 通行不能になった場所は神代地区、西木地区、角館地区で市の南部に集中している。除去作業は、各地センターの職員が中心になって行った。維持、修繕は補正予算に計上している。

これまで林道の管理の方法は旧町村で異なっていたが、統一した管理をするため西木地区の例に習い、林道一路線一千万円の管理費プラス、メートル当たり五円を出し受益者の管理委託をすることにした。

質問 事業施行の優先順位と早期発注については発注計画を示すように、またどのようにに努力しているのか。

市長 事業の早期発注については入札契約室に随時、督促指導をしている。早期発注出来るよう今後も努力していきたい。

二百五十万円以上の工事については公表しているし、原則的には地元業者に落札する

ようにしている。業者は外ない技術を売り込んでほしい。

農道の整備補修について

質問 市長は農家のことを本当に考えているのかとの声がある。現状をよく知る必要があるのではないのか。

市長 旧町村の管理に違いがあったが原則的には、受益者からの申請に基づき、砂利敷き、小土地改良事業費補助金の事業費三十％を補助する制度の活用で対応して参りたい。

農道の利用状況により市道の格上げ等も考えている。



山が泣いている。
いたる所で倒木が林道をふさいでいる。

一般質問



神代小学校の耐震対策を急げ ケーブルテレビの 実施できないか。

平岡 均

神代小学校の耐震対策を急げ

質問 非核平和都市宣言を新市で条例化する意思はないのか。市民の安全を守ると同時に、この市を、この街を、市民生活をどの様に守り発展させるのか。

市長 行政としても国民の一人としても重要な問題であり、三町村が議員提案で決議された流れを継続して頂ければ市民にとって理解しやすいのでは。今後の進め方については協議をさせて頂きたい。

い。

質問 大仙市は小学校六年生まで医療費を無料にしているが仙北市ではできないのか。実施した場合どの位の負担額になるのか。学校や教育委員会と予防活動していくことでそんなに負担がないのでは。

市長 現在小学校の児童は千八百八十名で概算すると千八百万円の自己財源が必要になる。県の決めた所得制度を越えて六才までの乳幼児に支給を行い、この市ができる範囲のことを現在行っている。

質問 防災無線は雨や風があると聞こえにくくなる。光ケーブルが入っているのので、新市誕生のこの機会にケーブルテレビを考えて見るべきでは。議会傍聴も家庭や病院、学校でもできる。色んな情報も全部伝達でき、経費の節減につながるのではないかと。

市長 ケーブルテレビ導入の目的は様々ある

うかと思うが、大内町では維持費が一億数千円かかると聞いています。

情報化のシステムがどんどん変わっている。目的にあった、そしてそれぞれに見合った費用でやれることを進めて行きたい。

質問 角館統合小学校は日程をたてて進み、神代小学校は何も進んでいない。同じ市立の学校で何故こう違うのか、色んなことをやらなければいけないと思うが、いつまでも待っているわけにはいかない。特に相手は子供である。子供の問題、教育の問題、将来を担う問題である。

市長 お金がないとかで逃げられる問題ではないと思うが。調査結果が出たことをふまえ、教育委員会中心に今の児童数の規模で校舎がどうあるべきかを十分検討し、新しい校舎建設に進めてまいりたい。

教育長 調査の結果補強もあるが、教室棟、管理棟は全面改築で進めたいと思われている。スピードの問題は言われるような所があるので、真摯

に受け止めてまいりたい。地域の皆さんが調査の結果、安全で安心な校舎にしてほしいという願いは、私共しっかり受け止めているつもりである。その為には地元の方や関係者を含め仮称「学校建設委員会」をできるだけ早く立ち上げ、意見収集と資料の整理をしながら進んでまいりたい。

しかし、今日明日の心配もある。仮校舎等の対応の必要もでてくる可能性もある。



改築が待たれる神代小学校



一般質問



行政改革の推進について

中心商店街の再生について

佐々木 章

質問 行政改革と財政健全化は表裏一体をなすものと考えているが、今回の集中改革プラン作成にあたって、現在の財政状況についてどのように分析し、どのような観点からプランを作成したのか伺いたい。

また、今回は市内でのプラン作成であった。市長は従来民間の考え方を行政に導入したいとの考え方をしていたがこの点については、どの程度の考え方が織り込まれたのか。

市長 行政改革と財政健全化は表裏一体をなすものであるという考えには同感である。

財政分析については、経常収支率九十九・四％で弾力性に乏しい状況であり、しばらくは急な好転は望めない。そ

うした実状の中で、行政サービスの質を落とさないようにやって行く必要がある、その為には定員の適正化、事務事業の見直し、民間への委託等様々な手法をとり対応して行く。

今まで二回地域審議会を行ってきたが、三回目は市長の諮問という形をとり、こちらで練ったものを提示し、それに対する地域特性を含めた意見を伺い、民間の考えをその中で取り入れるように考えた。

質問 十九年度予算編成の時期が来る。後手にならないよう編成しなければならぬと思うがどうか。また、懇談会や審議会等を民間の意見を幅広く聞ける会にして頂きたいが市長の考えを伺いたい。

市長 後手にならないよう十分配慮して進めて行く。懇談会、審議会等も市長の諮問機関にならないよう配慮し、市民の意見を取り入れていきたい。

また、九月の行政改革大綱作成にあたっては、行政改革懇談会を立ち上げ、十五名の民間委員の内五名を公募し、幅広く市民の声を聞き、民間の方々を考え方を織り込んで大綱にしたいと考えている。

中心商店街の再生について

質問 個々の商店のやる気、「商店街全体」での取り組み意欲は不可欠の要件であると考えているが、サポート体制を構築する市の対策はどうか。

市長 財源的な面では厳しいが、人的な面でサポートできるような努力していききたい。

質問 角館地区の外町の活性化策として、三月議会で「山車会館」の建設が提起されたが、今後についてはどのように考えているのか。

市長 実行の方向で進めたいが、内容、目的については十分検討が必要であり、今

後についても、厳しい財政状況にあるので、地元の皆さんと十分話し合って進めて行きたい。

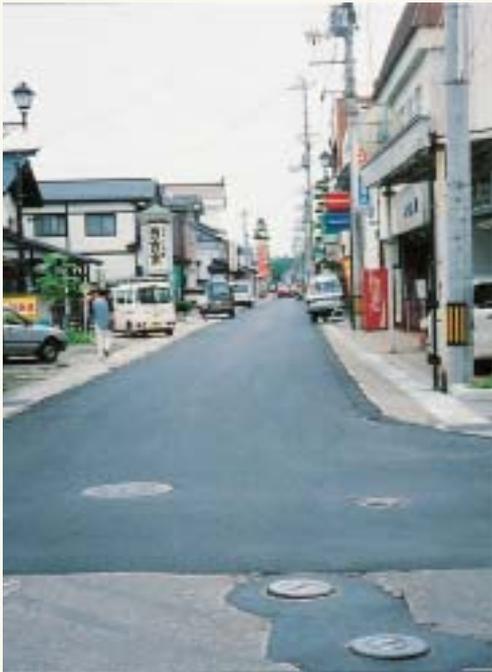
神代小の環境整備について

質問 現実に学校の建物はどうなっているのか。教育委員会としてどういう手法で安全性を考えているのか。

教習長 震度五強の揺れでもな対応が必要である。補強と新築の費用に関する資料を集めている所であり、かかる費用が同じ位であるならば全面改築も考えている。国、県と連携を取りながら具体的にしていきたい。

質問 耐震強化と全面改築となると耐力度調査に該当し、時間と費用がかかる。学校建設委員会の議論も必要だが、教育委員会が全面に出て前に進む事を考えて頂きたい。

教習長 教育委員会として基本的な考えを出し、それを基にしながら付帯する意見については、学校建設委員会等の意見も出して頂きながら進めて行く。



中心商店街の舗装工事中

一般質問



観光産業と農業を連携し、自立経営で所得向上をめざす施策は

黒沢 龍己



待たれる不感地工リアの解消

質問

仙北市が誕生して、九月。「観光産業を活性化させた北東北の拠点都市」を目指す仙北市として、観光産業と基幹産業である農業と、どう連携し結びつけて行くのか。

特に「米」作り農家の所得向上、自立経営が出来るような施策について、石黒市長はどう考えているか。

市長 現在、仙北市の農業生産高は、仙北市全体の四・五%の約四十五億円であり、その内「米」の生産高が

六十%、その他の作物が四十%である。大曲仙北地域では、七十五%が「米」である。

県仙北地域振興局では、その割合を五対五にする目標であるが、仙北市としては、高品質米、米の加工品などで他との差別化をはかっていきたい。

さらに「山の楽市」などでのイベントでPR活動を行っているが、まだまだPR不足だと思っている。今後各地でのPRに力を入れるとともに、その種を实らせるように、

個々の農家が直接販売できるようなルートを作り、農家の所得向上と観光産業に結びつけていきたい。

種苗交換会を仙北市で

質問

秋田県農業の最大イベントである種苗交換会を仙北市で開催できないか。百二十八回を数える種苗交換会

は、昨年鹿角で開催され一週間で、七十六万五千人、一昨年の大曲市では、百五万人の動員があった。かなりの経済効果が期待できるイベントである。会場も広域交流センターを中心統合される西長野小、東小の体育館、そして来年行われる国体の馬術競技会場の跡地利用も考えられる。

明治十一年から開催され、秋田県農業に多くの貢献を果たしてきた種苗交換会を仙北市に誘致する考えはないか。

市長 一昨年、大曲市で開催した時に、全体の費用が五千二百万円、その内開催地負担が約二千万円であった。

施設、財政等の問題もあり、今すぐはできないが、かなりの経済効果も見込めると思う。今後、総合計画の中で七年後開催に向けて誘致活動をしていきたい。

仙北市エリアの携帯電話不通話の解消計画は

質問

国道、幹線道路など大部分は、不感地域の解消はできていると思うが、現在、仙北市内で不感地域はどのくらいあるのか。また合併前の建設計画に入っている計画の進捗状況はどうなっているのか。

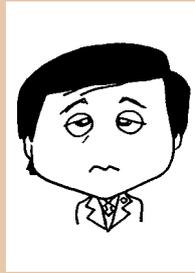
市長

花葉館周辺は、FOMAの新機種で対応できるようになったが、仙北市エリア内では、山谷川崎、柴倉、湯、上院内、湯野、八割、中里、戸沢、の八地区が不感地域になっている。今後も国、県、事業者に対し強く要望していく。



国体馬術場

一般質問



合併効果をどう評価？

財政対策と収納業務について

高久昭二

質問 合併前から予想された事ではあるが、仙北市の財政事情は極めて厳しく、合併目標の財政安定化には程遠い。また、行政サービスを高め住民負担を押しさえ、行政組織をスリム化する目標も極めて厳しいものがある。市長は現時点での合併効果をどのように評価しているのか伺いたい。

市長 合併前の三町村は、それぞれが現時点に至ったとしても厳しい状況だったろうし、その解消のための合併であった。スケールの大きさの中、二つのメリット、旧三町村の各種資源の活用での新しい可能性を求める合併であったと考えている。しかし、財政的に急な好転は望めない状況だが、合併効果を十八年度さらには十九年度の中で少しでも求めていきたいし、効果の出るようになっていきたい。

われる。今後の仙北市の財政対策についてのご所見を伺いたい。

市長 現時点で財政の安定化が図られていないと評価するのは早計すぎる。歳入において高齢化や人口減により市税の収入は下降傾向にあるし、交付税も下降し続けている。歳入確保の為の市有財産の処分等も前向きに検討していきたい。歳出を押しやる方向で大きいのは人件費である。職員の定員適性化計画に基づき効率的な行政運営が図られるよう機構・組織の改革や人員配置を進めていきたい。

質問 平成十八年度一般会計当初予算は百八十三億八千八百万円で、合併前の財政シミュレーションより五億八千万もオーバー。財政調整基金から九億円も取り崩しての予算確保である。今、仙北市に求められるものは、合併特例債を見込んだ新市計画や財政計画の見直し等が必要と思

市長 税の納入は市民の義務であるし、公平性を持つて行かなければいけない。未納の分については納付して頂く事を行政サイドとして行う

事が義務である。予告通知は決して機械的発送ではなく手順を踏んでの事である。事情があつて未納の方には個々のケースに応じて対応可能な処置をこれまでも取つて来たし、今後も取つて行きたい。

質問 角館地区旧都市下水路遺溝だが、衛生上、環境上問題があり、市民からの苦情も多い。対応について伺いたい。

市長 排水が流れ込んでの事と可能性を含め検討したい。



流水が待たれる田町付近

り込もうとする憲法改悪の動きと連動しているもの。仙北市の教育にも大きな影響を与えかねない。教育基本法の改悪並びに愛国心通知書に關しての仙北市教育委員会の見解はいかに。

教育 仙北市の教育は現在法の改正をめぐつての論議は国民に明確に分かる過程を経て、しっかりと論議を深めた中で現行なり改正なりして頂きたいと思つている。愛国心評価は県内では秋田市で二校行つているが、仙北市では一校も行つていない。

質問 藤里町の豪憲君殺害事件は全国に大きな衝撃を与えた。子供達の安全で健全な成長を計る事は大人社会の重大な責務である。子ども達を守る仙北市の施策を伺いたい。

教育 子供達の安全対策は地域の实情に応じた対策を中心に展開している。登校は集団登校を基本にし、下校時の安全では一人一人の実状を確認する中で、地域やPTAの協力も頂き対策している所がある。

質問 教育の憲法である教育基本法の改悪の動きは、国民を再び戦争の道へ引きず

一般質問



地域づくりの基本的考えは 職員の労務管理について

田口 喜義



めっきり少なくなった工事現場

市長の政治姿勢について

質問 市長は仙北市の地域づくりの基本的な考え方は開発型成長なのか、持続的発展を目指していくのか。

また一極集中で都市機能を高めるべきなのか、個性ある多極分散型の地域づくりするのか。

財政は税の移譲は少なく補助金の削減、地方交付税や臨時財政対策債の大巾な削減などで、収支のバランスをとるために地方債の発行と基金のすべてと言っているほど取り

くずした。今後の財政運営について伺う。

市長 この合併は財政的な問題で合併をせざるを得ないとの判断であった。規模を大きくすることによって個々の小さい行政自治を効率的に行える。具体的には組織、機構のスリム化、人員の削減など行政として公共施設の効率的な配置、使用の仕方など数多くある。地域がもっている個性や良さをお互いに活用出来ることになる。

一極集中が多極分散については全市が底上げ出来るよう

な多極分散で行く。

財政運営については歳入の減少などで九億円の基金を取りくずして収支のバランスを計ったが、このまま続けることは出来ない。

合併によって節約出来るところは早く効果が出るよう統廃合や、施設の共有化、不要な資産の売却、貸付をする。

質問 市民の声が届かないと聞くが市長はどう対応するのか。

市長 地域の座談会などに出るようになっている。

角館庁舎は火曜日、西木庁舎は木曜日で地域センターを通じて地域の問題を聞くようにしている。

職員の労務管理について

質問 今年度に入って田沢湖庁舎のタイムレコーダーの廃止の理由は何か。また時間外勤務はどうなっているか。

市長 西木、角館はタイムレコーダーは使用していなかった。統一する意味で廃止をした。自己管理、自主的な管理にするべきだと思っている。

時間外勤務については、時間外の命令があつてするもので自主的な残業はない。

質問 田沢湖庁舎の観光課の廃止の理由は何か。

市長 本課で事実を把握していない事が非常に多くあり、組織のあり方として指揮、命令が複数あることは、一つのところに行かない場合がある。一元化することにより、統一された行政運営ができ、弊害がなくなる。地域の観光に関わる事業、業務は観光班で対応できる。

都市計画税について

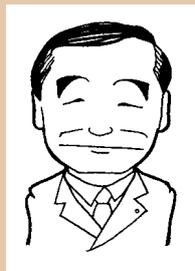
質問 角館町が昭和四十七年から現在に引き継がれ、都市計画事業に用する貴重な財源で、今年度も四千四百万円を計上しているが、廃止する方向であるならば事業についても見直しをするのか。

市長 この税は合併協議の中で廃止の方向であった。目的税であるが区域全体でその税を使うのが難しい。十九年度からこの税を廃止に向けて準備しているので、今年中にいろいろの整備をしなければならぬ。

質問 平成十八年度の冬期交通対策については万全か。

市長 建設部を中心に検討を開始した。

一般質問



給料、報酬の引き上げについて市民の批判はものすごい、市長はどう答えるか

浅利則夫



少子化子育て支援の充実

質問 市三役、教育長、議員の給与、報酬等の引き上げについて、市議会では修正案も出されて、結果は原案の通り可決された。私自身、色々な集会に行くところ、その場所場所で議員の報酬の事が話題となる。その会合の本来の事をさしおいて引き上げの事が話題となる。

皆、おこっているのだ。なぜだろうか。我々、議員は真剣になって考えなければならぬ。報酬等審議会では様々な意見がでたと言われているが、具体的にどういうことなのか。市民にわかる様に示すべきだ。市民の批判と市財政の健全

市民の健全

化をめざす意味でもきつちりとした姿勢を示さなければならぬのではないかと。市長の基本姿勢が問われる問題であるがどうか。

市民の期待と批判に答える様にするには、選挙の時の公約通り、やる事があたりまえの事であるがどうか。

市長 給与、報酬の引き上げは審議会等、手順をふんでの事であるので市の広報等で伝えて理解して頂きたいと考えている。

そのために力を尽くしたい。報酬等が上がるのに、各種の補助金がカットされている。ホームページが直っていないが何故か。給料、報酬、引き下げの時期はないのか。

市長 決定してもらった前に議論してもらった。今後の事は考えていきたい。

質問 乳幼児医療費無料化政策と子育て支援サポート事業等について。新エンジェルプランとの関係をも含めて答弁を示して欲しい。

市長 新エンジェルプランの具体的な計画はまだない。民意を反映させた方向で示させて欲しい。

質問 西木地区災害箇所二ヶ所に対する復旧対応について（霞田地区の山地崩落と堀内地区の民家に迫る河川浸食）

市長 霞田地区の山地については測量をして住民に説明をしている。堀内地区の河川浸食については県から査定を受けているところだ。

質問 中山間地域の農業を守る為の市の独自政策を求める事について。

市長 農林業の事について、多くの課題があると考えている。しかし、当市はやっぱり基幹産業は農林業である。

質問 そうだとすれば市独自の政策を持つべきだと思うが、どうか。

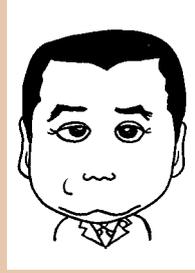
市長 農林業についてはまだ不十分であるので検討させていただきたい。

質問 乳幼児医療費無料化政策と子育て支援サポート事業等について。

市長 新エンジェルプランとの関係をも含めて答弁を示して欲しい。

市長 新エンジェルプランとの関係をも含めて答弁を示して欲しい。

一般質問



仙北市農業の再生と 活性化の対策は 特産品の開発について

青柳宗五郎

質問

低迷を続けてきた日本経済の景気回復基調の中で著しく不審、衰退の続く本市の基幹産業である農業は減反の強化、米を始めとする農産物価格の下落低迷、農業従事者の高齢化と担い手不足等から先行きの見えない状況になる。

これらをどう再生、活性化をしていくか所見を伺いたい。

市長

仙北市の農業は広大な農地を持つ全国有数の農業を基幹産業としてきた地域であり、米を始めとした農産物の販売を伸ばす工夫が必要と考える。

米であれば特殊な栽培、野菜であればこの地にあった作物の栽培、その特徴を全国にアピールし販売をしていく。

そうした取り組みは始まっていると認識している。

質問

地域活性化の基本は地域人口の確保増大を図ることである。全国的な少子高齢化のなかで定住人口増は望めない状況であるが観光客をより多く呼び込むことで交流人口を増やすことはできる。

本市は県内でも恵まれた観光資源を有しており一年を通して多くの観光客が訪れるが大部分が通過型観光である。

これを市が中心となり地域の農林業団体、観光業者とのタイアップにより、これまでの自然景観や温泉地等の休息の場を充実させると共に伝統食品や郷土料理も単なる従来の繰り返しや他の真似だけでなく地域の持つ伝統的手法や農林産物の特長を最大限に活か

し創意工夫による地域独自の特産品として作り上げ来客に視覚と味覚の満足度を提供し、安らぎと潤いのある滞在型観光が一体的発展につながるものと考えているがどうか。

市長

特産品の開発については合併前の各町村でも取り組んできた。「ホウレン草麵」「栗焼酎」「山芋鍋」「サククラ麵」伝統的な保存食、林産物を使った加工品などがある。

旧西木村では、アケビの種子から抽出した液体を秋田大学へ成分分析を依頼している。

健康によい成分が含まれているとの報告があり今年も引き続き特産品になるよう研究を進めていきたい。

地元ソバの手打ちや地元農産物限定の食材を使った店、農家個人で加工施設を作り「おやき」「ゆべし」「漬物」等の加工販売が多くなってきた

ている。

角館観光協会では大手化粧品会社と共同で開発した「しだれ桜の香水」が好評を得ている。

行政としては流通のノウハウ、市場の開拓が課題と考えている。

質問

消費者の食に対する最大の関心事は安全性である。外国産の野菜等に使用されていると思われる防虫防腐剤、鮮度保持剤については消費者団体でも問題とされているところである。

健康を確保するにはその地域で作られた食物を食すること即ち地産地消が理想とされているが、市はどのような支

援をしていくのか。

市長 食材を市場に出すにもあったが、中身の問題が大事であり直売所も増えている。

市としては直売コーナーを広報、ホームページで広く知らせていく。

今後さらに地産地消を深め、美味しいと思ったものなければ人には進められないという観点から地元の方が食べられる環境を作り、最終的には地産地消にとどまらずそれを外部に出荷し、買っていたただかなければ産業として成り立たないものと考えている。



共同で開発した桜の香水



常任委員会だより



総務常任委員会に付託された案件は条例案三件補正予算案二件指定管理者関係三件その他二件陳情五件の計十五件である

想定外の大雪除雪の事故、被害の現状は？

問 除雪に関連した事故についてであるが、破損など被害の内容はどうなっているのか。

答 事故の為の被害総額は二千五百八十五万円である。

それに対する災害共済の被害補償額は七百三十三万円であり、補償対象は建物に限られている。

問 補償対象外の被害が大きい、フェンス等付帯した物にも保険は掛けられるのか。

答 それらを所管している部署で必要かどうか判断して掛けることが出来る。

誘拐事件多発に市の子育て支援は？

問 職員の勤務時間等の変更の条例は仙北市で必要かそれとも児童福祉法の改正の為か。

答 職員の勤務時間は八時間であり、児童の送り迎え等の為の早出遅出が認められている。

昨今児童誘拐や虐待など児童を取り巻く環境が社会問題化している。

今までの対象が概ね五歳までだが、子育て支援の意味を含めて十歳まで拡大したい。拡大する送り迎えの学童保育児童数は「西小ドングリ」他三施設で約四百人程いる。

職員の該当子弟の数は把握していないが、先駆けて実施する事により民間にも波及する事を願っている。

国体馬場は？

問 工事の内訳はどうなっているか。マットが特殊であると聞いているが価格はいくらか。契約業者はその工事が出るのか。

マット以外の方法は出来なかつたのか。

答 二億八千万円の内訳は馬場工事が約四十七%、排水

工や馬場柵工等施設工事が五十三%となっている。

マットはリース払いとし、二万二千平方メートルに施行総額は百十二万円程である。マットを敷き詰め、上に砂をまく方法で地元A級業者が設計施工できる。

時間がないのと、価格が高くなるので、マットを使用する事にした。

但し、事業費は県百%補助なので、元の更地にして戻す事になる。

その他意見・要望

昨年度の豪雪で林道・作業道に被害が出ているが、沢の倒木等を調査し、梅雨時期の大雨による被害が出ないよう対応してもらいたい旨の要望、国体種目の「野球」実施球場の施設不備を指摘する意見、教育委員会と協議し、球場を整備し、国体種目を開催する施設として万全を期すようにとの要望などが出されました。

指定管理者制度適用

★スマイルバス
西宮家



国体馬場として整備される玉川河川敷

- ★下延コミュニティセンター
下延コミュニティ連絡協議会
- ★八割コミュニティセンター
八割部落
いずれも管理地は角館町
- ★の左は請負団体名
付託案件の採決
陳情五件を除いて他の十件を原案通り全会一致で可と決定しました。

教育民生 常任委員会

平成十八年六月二十一日、教育民生常任委員会に付託になった。議案及び請願、陳情について。

問 仙北市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例制度について、障害者の数と今後の見通しはどうなっている。また認定区分はどうなっているか。

答 平成十八年三月三十一日現在、当市での障害者手帳配布者は千九百九十八人である。高齢者が増えれば増えてくると思っている。認定区分の基準について、六段階まで設けようとしているが、具体的にまだ判っていない。

問 仙北市国民健康保険税条例制度について、納期について、合併前と同じだったのか。また、納期を増やし納税者が支払計画を立てやすいように検討できないか。

答 田沢湖は四期で角館、西木は六期であったが、合併協議会は六期で調整した。納めやすい納期の回数については、これからの検討課題だと考えている。

問 減免について、数字的な決まりを作っているのか。基準を設けて、弾力的に対応できないか。

答 単に数字的に表してはいない。

問 仙北市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制度について、診療科を増やしたから、病床が減ったのか。また病床数が上床減つたのは、病床に入る人数が減って余裕があるからか。さらに変更に伴い看護師等の人員は減少しているのか。

答 現在、呼吸器、循環器科と表示しているものを、呼吸器科・循環器科に、また神経精神科を神経科、精神科に分けるもので、医療法上にあわせたものである。

問 仙北市病院事業使用料及び手数料徴収条例の一部を改正する条例制度について、経営が大変なのはわかるが、出産する人の負担が増える。出産に一人三十万円以上もかかる。気持ちも金額も楽になるように出来ないか。

答 病院全体を見た場合、経営が大変なので、お願いできるものは、お願いしたい。遺族会運営費用補助については、通常社会福祉協議会でやっていると思うが、どうか。また、単位組織補助金が削減され、市管理のバス等の利用も出来ないの、身動きが取れないと聞いている。どうにか出来ないものか。

問 通常の遺族会事務は社会福祉協議会で行っているが、県と関わる部分は、市で行っている。バスの件についてはこれからの管理運営について検討していきたい。

問 保育料が高くなった、また神代保育園は入り口の道路が送迎の時込み合って危険である。改善できないか。

答 保育料の取り扱いについては、合併時に統一化を図ることに、各階層によっても違う。高くなつたばかりではないと思う。

問 道路関係については、建設課等と検討したい。

問 学校の安全マップ作成について、それぞれ各学校で取り組んでいるはず。また市民会館の使用状況についてどのようなになっているのか。

答 当初の安全マップは、教師、親の目から見て作った。現在作ろうとしているマップは、子供達の目線で作るものである。市民会館については、施設の老朽化は進んでいるが、今年度も各種イベントを予定している。

問 上桧木内小学校の閉校式関係について、事業計画は出てきているのか。

答 また、補助金について半額が妥当な補助と思っているのか。

問 最初の事業計画について出されている。半額補助については、地域の事を考えれば、半分以上補助したいとは思っているが、今後検討していきたい。

問 仙北市国民健康保険特別会計補正予算

問 繰越金については、金額予算計上されたものか。また他の自治体では大雪のため医療費が予想より少なかったとあったが、当市ではどうだったのか。

答 繰越金の補正額は、予算策定時においての歳入見込みの数字である。出納閉鎖後の繰越額の確定予算額は、二億八百万弱円である。

問 仙北市老人保険医療特別会計補正予算

問 公の施設の指定管理者の指定について（西木温泉ふれあいプラザクリオン）、クリオンについて、千五百万円で四月から八月まで委託しているといったが、その内容はなにか。

答 宿泊休養施設、体育館、プール、集会施設、レストラン、売店を行っている。千五百万円については、四月から八月まで支払うことで今現在契約している。九月以降は残り分の金額、二千四百八十五万三千円で契約する予定である。十九年度、二十年度は、年間三千九百八十五万三千円を上限に委託する予定である。

問 指定管理者になつた場合も、会社の経理は議会に決算状況報告があるのか。また、クリオンの経営状況についてチェックして行かなくとも良いのか。

答 いままでどおり決算状況を報告する。

問 自動車物損事故に係る和解及び損害賠償について

本案につきましては慎重審査の結果、全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

17



本会議から当常任委員会に付託された案件は条例二件、補正予算一件、市道の認定一件、指定管理者関係五件、除排雪中の物損事故関係八件、陳情三件である。

仙北市浄化槽整備事業 受益者負担条例の一部 改正

問 今回の負担金見直しの理由は何か。

答 環境省で全国的な調査をしての見直しだが、具体的に何が変わったとは示されていない。メーカーにより浄化槽本体価格にもバラつきがあり、総合的な判断からの見直しで標準事業費を定めたとのことである。

問 西木地区では受益者負担金がないようだ。何時までか。

答 合併協議のすり合わせにより決めたことであり事業が終わる十八年度までである。

農林水産業費補正予算

問 品目横断的経営安定対策に対する市の説明会等の対応はどの程度進んでいるのか、対象集落数と今回の補正額百万円の内容を説明してほしい。

答 対象集落は二百三十集落であり、説明会は終了している。

Aランクとして、十集落が今年度中に集落営農、法人化を目指している。その活動経費として一集落十万円である。

Bランクとして、九集落が来年度設立を目指している。Cランクとして、十二集落が今後設立を目指し話し合い中。以上が現段階であるが、BランクがAランクにCランクがAランクになるように説明を重ね誘導していく。

この集落営農化が進まない原因は、リーダー及び会計処理を引き受ける人がいないことが大きな原因のよう

問 くだ。

問 目指せ“元気な担い手”

農業夢プラン応援事業費は幅広い助成対象がある。県の補助率が三分の一以内だが大仙市や美郷町ではそれぞれ助成している。仙北市が助成できないのはいかなものか。

やる気のある農家には支援をしていくと言いながら、まったく対応していない。

その他の農業関係予算も少なく市長から直接考えを聞きたいので参与を求め

市長 同事業について県の市町村に対するガイドラインとして十二分の一以上の助成が望ましいということは承知している。農家の方達が何に取り組むかというなかで、その方向を見極めたうえ九月補正で対応したい。

土木費

問 昨年度の豪雪に対する除排雪については多くの市民から苦情があった。今年の冬に備えて今から対応を検討しておくべきと考えるが

どうか。

答 各地域センターを通じて問題点の洗い直しをしている。

想定外の豪雪で通常通りの除雪が出来なかった。

初動体制にも不備があり、問題点について検討している。それを教訓として今年の冬に対応していく。

問 電源立地地域対策交付金事業費の減額の理由と同交付金で可能な事業は何か。

答 当初抱き返り線の整備費であったが、県事業として整備されることになり七百五十万円の減額である。

同事業費は以前いろいろな事業に使うことが出来たが、平成十七年から一市町村一事業になった。減額された財源は保育園関係に使いたい。

当委員会は次の意見を付し原案を可決、陳情は採択とした。

◎意見

市長には仙北市の農業振興について真剣に捕らえてほしい。農業は基幹産業であることとの位置付けについても真剣に捕らえて欲しい。

近隣町村の大仙市、美郷町では農業振興に対して単独の予算を盛り込んでいる。

仙北市としても農業振興には市単独の予算が是非とも必要であると考ええる。

・目指せ“元気な担い手”農業夢プラン応援事業費に市単独の補助

・有機栽培、仙北米確立のために市独自の補助などについては是非ともお願いしたいものである。

市と農家と一体になっての農業こそが、仙北市発展の源であるということは委員一同の考えである。

市長から、やる気のある農家の取り組みの方向性を見極めたうえで、支援については九月補正なりで対応するといってお答えをいただいた事については、大きな成果であると同時に、今後の農業に大いに期待するものである。

市長等四役の給与、

議員の報酬決まる。

報酬等審議会の結果を受け、五月十七日の臨時議会で以下の通り決まりました。

市長 八十五万円

(平成十八年五月から二十年三月まで十%カットで七十六万五千円)

助役 六十三万八千円

(同じく八%カットで五十八万七千円)

教育長 五十七万八千円

(同じく六%カットで五十四万三千円)

議員 三十四万円

(同じく五%カットで三十二万三千元)

これに対して報酬を引き下げるべきだという修正案が出されましたが、賛成四、反対十九で否決、続いて、議案は賛成十七、反対六で可決されました。



控室風景

がまだ短いせい、いまいち、会話がピンと来ない時があります。少し時間がかかるかもなあー。というのが、議員達の声の様です。

合併して最初の市議選が行われて二十四人の新しい議員が誕生しました。

田沢湖庁舎に議場があります。が、その近くに議員の控室もありません。

旧三町村の出身の議員が休憩時間等に雑談を交わしている訳ですが、何しろつき合いの期間



珍しい、赤いアカシヤの花

請願・陳情・意見書

請願二件、陳情十件、所管の常任委員会で慎重審査の結果採択六件、継続審査六件であった。

採択されたもの

- ・市立神代小学校児童の安全確保に関する請願書
 - ・地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める陳情
 - ・出資法の上限金利の引き下げ等、「出資の受け入れ、預り金及び金利等の取り締まりに関する法律」及び「貸金業の規制等に関する法律」の改正を求める陳情書
 - ・違法伐採問題への対応強化を求める陳情書の提出について
 - ・地方交付税制度の財源保障機能を堅持し、充実させる陳情書
 - ・「ずさんな米国産牛肉の輸入に抗議し、BSEの万全な対策を求める」陳情書
- 以上の陳情五件に対しそれぞれの趣意に基づいた意見書を作成し、各関係大臣等に提出した。

継続審査となったもの

- ・クリオンプール新規着工に関する請願書
 - ・「公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書」提出に関する陳情
 - ・武力攻撃事態等における「市町村国民保護計画」策定に反対する陳情
 - ・危険校舎市立神代小学校の改築について
 - ・高野会館周辺整備について
 - ・住民の暮らしを守り、公共サービス拡充を求める陳情
- 現地視察等状況調査や内容について、もっとと精査が必要という意見があり継続審査となった。

編集後記

市民の皆さんにわかり易い、読み易い議会の内、外を届ける様にスタッフ一同ガンバっていきたいと思います。

写真や記事、ご批判等、お寄せ下さい。

よろしくお願い致します。



副委員長	小林幸悦	委員	田口寿宣
副委員長	浅利則夫	委員	佐藤直樹
委員	藤原助一	委員	大石温基
委員	八柳良太郎	委員	安藤武
委員	平岡均	委員	廣報委員

